

基地関係特別委員会 会議録（要旨）

○ 開催年月日 令和2年4月13日（月）

午前10時03分 開会

午前11時43分 閉会

○ 場 所 第3常任委員会室

○ 出席委員（9名）

委員長	知名康司
委員	平安座武志
委員	真喜志晃一
委員	上里広幸
委員	玉城健一郎

副委員長	桃原功
委員	石川慶
委員	桃原朗
委員	栄田直樹
委員	宮城克

議長	上地安之
----	------

○ 欠席委員（0名）

○ 委員外議員（0名）

○ 説明員（0名）

○ 議会事務局職員出席者（1名）

主任主事	渡嘉敷真
------	------

○ 協議案件

普天間飛行場から泡消火剤が漏出した事故について

基地関係特別委員会 会議録（要旨）

令和2年4月13日（月）

○知名康司 委員長 ただいまから基地関係特別委員会を開会いたします。

（開会時刻 午前10時03分）

【協議事項】

普天間飛行場から泡消火剤が漏出した事故の取り扱いについて

○知名康司 委員長 4月10日に発生した普天間飛行場の泡消火剤漏出事故について、本委員会で取り扱うか各委員の御意見を伺いたい。

○桃原功 委員 市当局から状況報告を聴取したい。

○知名康司 委員長 休憩いたします。（午前10時05分）

○知名康司 委員長 再開いたします。（午前10時42分）

○知名康司 委員長 担当部署から今回の漏出事故の概要について説明させたい。

○基地渉外課長 4月10日に発生した普天間飛行場からの泡消火剤漏出事故についての時間経過及び基地渉外課の対応について説明したい。

4月10日金曜日の午後5時15分頃、本市真栄原のさつき保育園から泡を確認したこと及び塩素臭がするとの連絡があった。午後5時23分、職員からの情報提供で、上大謝名のさくら公園で同飛行場から泡のようなものが飛来しているとの情報を受けた。午後5時40分、沖縄防衛局から「G7から午後4時40分ごろに泡消火剤の漏出事故があった。PFOSを含んでいるかは現在確認中である」旨の連絡があったとの報告を受けた。午後5時50分、基地渉外課職員がさつき保育園に到着し、泡消火剤が漏出していることを確認した。午後6時10分、さくら公園に到着したが、泡消火剤は確認できなかった。午後6時30分、沖縄防衛局から「G7から泡消火剤にPFOSが含まれるとの報告を受けた」旨の連絡があった。午後8時12分、沖縄防衛局に原因究明及び消火剤の回収を申し入れた。午後8時24分、外務省沖縄事務所と同様の申し入れを行った。午後8時28分、沖縄県基地対策課にも同様の申し入れを行った。午後9時8分、外務省沖縄事務所から「G7が泡消火剤の回収について指示を出している」旨の連絡を受けたとの報告があった。

4月11日土曜日午前8時30分、消防から基地政策部に連絡があり、宇地泊川に泡消火剤があることを確認。午後0時頃、海兵隊政務外交部長のオーウェンズ大佐が現場に到着。午後1時5分頃、普天間航空基地司令官が現場確認、午後1時55分頃に引き上げた。宜野湾市は午後2時40分頃現場を離れた。

ただいま説明を行った時系列については、関係部署と情報のすり合わせを行っているところであり、詳細な時間等については正確ではないことを申し添えたい。

○**消防次長** 4月10日金曜日午後6時6分、基地政策部から市民から泡状のものが基地外に流れているとの通報を受けたため、調査していただきたいとの連絡を受け、我如古出張所のポンプ隊2隊が出動した。

4月11日、付近住民から河川に泡状のものが大量に浮いているとの通報を受け、午前7時50分頃に我如古出張所のポンプ隊1台、職員2名が到着。現場到着時には付近の住民が10名ほどおり、水面から大小の泡が宙を舞っている状況であった。消防署を介して消防の管理職、基地渉外課、沖縄防衛局、警察署に連絡を行った。私は消防署から連絡を受け、8時20分頃に現場に到着した。現場を確認したところ、応援が必要と判断し、真志喜出張所のポンプ隊に出動要請を行った。午前10時35分頃、泡の回収作業を開始した。当初は水中ポンプで水面の泡を吸い取る方法で回収を試みたが、効果が薄く、バケツで直接回収することにした。しかし、上流から流出する泡の量が多く、対応が難しいため上流に滞留する泡消火剤を噴霧放水することにより除去する対応を取ることとした。噴霧放水の開始時刻は午前11時51分である。放水活動を行っている途中でさらに上流の状況を確認したところ、放水活動地点から200～300メートル先でより大きな泡の塊を発見した。ところが、上流部は起伏が激しく、ホースを延長することが困難な地点であるため、作業を中断して会議を開いたところ、これ以上の活動は効果が見込めないと判断し、午後2時14分、除去活動を中止し、警戒巡視及び広報活動に切りかえた。

その後、11日の夕方、12日の朝夕及び本日の朝に警戒巡視を行った。今朝の時点では泡は確認できなかった。

○**桃原功 委員** PFOSが含有しているとの報告を受けたと伺ったが、流出量についての情報は受けているか。

○**基地渉外課長** 情報は受けていない。

○**桃原功 委員** 噴霧放水とはどのようなものか。

○**消防次長** ポンプで放水する際は、直線状に放水する方法のほか泡を散らさないよう噴霧状に放水することが可能である。

○**桃原功 委員** 下流域に流して回収する方法を選択したということか。

○**消防次長** 自然浄化という判断であった。

○**桃原功 委員** 昨年12月にも流出事故があったが、米軍と日本側機関の対応マニュアルなどはないのか。

○**消防次長** 流出事故への対応については消防としても反省する点があり、早速、本日午前9時に課長会議を開いて検証を行った。PFOSが河川に滞留した際のモニ

マニュアルはこれまでになかったため、今月 30 日をめどに作成することを指示した。

○**桃原功 委員** 米軍側とも調整しているのか。

○**消防次長** 米軍には連絡していない。予防課においてマニュアルの作成に取り組んでいる。

○**桃原功 委員** 回収した泡消火剤はどのように処理したのか。

○**消防次長** 宜野湾市上下水道局が用意したポリ容器に移しかえた。上下水道局が関係機関に引き渡すと伺っている。

○**桃原功 委員** ポリ容器の数はどのくらいか。また、関係機関とはどこを指すのか。

○**消防次長** ポリ容器は 2 つ用意されていた。容量は不明であるが、新聞によると 250 リットルの泡消火剤を回収したとの報道がなされていた。

○**基地政策部次長** 午後 3 時 10 分頃、回収した泡消火剤は上下水道局が普天間飛行場に全て搬入したとの報告を受けた。

○**桃原功 委員** 米軍が容器を引き取りに来たのか。

○**基地政策部次長** 詳細は確認中である。

○**桃原功 委員** 米軍の消防はいつ頃現場に到着し、どのような作業を行ったのか。

○**消防次長** 何時頃現場に到着したのかは把握していない。放水作業を中断している時点で米軍の方から「我々にも何か協力できることはないか」との相談があった。放水活動をしている地点から 200～300 メートル先にさらに大きな泡の塊が確認できるが、起伏が激しくホースが延長できないため放水活動を継続できないと伝えたところ、米軍からは部隊を投入してホースを延長する方法も提示された。しかし、放水作業の効果が薄いことから除去は難しいと判断するに至った。

○**桃原功 委員** 大事な部分なので再度確認したいが、米軍が市消防に対し、「何か協力できることはないか」と相談したのか。

○**消防次長** そのとおりである。

○**桃原功 委員** 米軍が漏出事故を起こしており、本来は米軍が対応すべきであるにもかかわらず、本市の消防に協力できることはないかと聞く姿勢は当事者意識の欠如を指摘せざるを得ない。今後のためにも米軍との間の事故対応マニュアルの作成に取り組んでいただきたい。

○**宮城克 委員** 今回の事故で人的被害はないのか。

○**消防次長** 消防隊員の健康状態及び資機材の状態を確認したが、現時点では異常はない。

○**宮城克 委員** P F O S が含まれているという情報は正確なのか。また、水質への影響はどうなっているのか。

○**基地政策部次長** 10 日午後 6 時 30 分に沖縄防衛局から P F O S が含まれる旨の報

告を受けている。水質については県の環境部が水を採取している。

- 平安座武志 委員 昨年 12 月に泡消火剤が漏出した際はシステムエラーが原因と伺ったが、今回の原因について伺いたい。
- 基地渉外課長 原因についてはまだ報告を受けていない。
- 平安座武志 委員 泡消火剤は保管されている状態でも泡状になるのか。もしくはスプリンクラーにセットされた後に泡状に変化するのか。
- 消防次長 スプリンクラーから出る際には既に泡状になるものと理解している。河川の堰などによりさらに泡立った可能性もある。
- 平安座武志 委員 米軍が使用しているシステムは何度もエラーを起こすほど古いのか。
- 基地政策部次長 詳細は把握していない。今後、抗議要請等を行う中で確認してまいりたい。
- 平安座武志 委員 河川の管理は県の管轄と認識しているが、県はどのような対応を行っているのか。
- 基地渉外課長 環境部が水の採取を行ったことは確認している。
- 平安座武志 委員 県は除去作業を行うべきではないのか。県が機能していないとしか思えず、他人ごとのように感じる。事故が起こった際の関係機関の連携に係るマニュアルなどはないのか。
- 基地渉外課長 マニュアル等はない。一義的には管理者である県が対応すべきと考えるが、いとまがない場合などの対応などについて協議する必要があると考える。
- 平安座武志 委員 いざという時のために関係機関が連携できるようマニュアル作成を行っていただきたい。また、今回の流出事故の原因についてもしっかりと究明していただきたい。
- 真喜志晃一 委員 今日時点の水質調査は行わないのか。
- 基地政策部次長 県の調査であるため、内容は把握していない。
- 石川慶 委員 近隣住民への対応などについて伺いたい。
- 基地渉外課長 11 日土曜日に防災無線で呼びかけ、泡に触れないよう注意喚起を行った。
- 基地政策部次長 上大謝名のさくら公園にも泡が飛散したとの情報を受けているため、公園を管理している施設管理課及び委託業者に確認を依頼した。また、保育園に関しても福祉推進部や環境対策課とも連携して取り組んでいる。
- 石川慶 委員 回収した泡はどのように処理するのか。
- 消防次長 P F O S の処理場は県内にはないため、米軍がどう処理するのかは不明である。

- 宮城克 委員 当局の今後の対応予定について伺いたい。
- 基地政策部次長 本日午前9時30分から10時30分まで市長、副市長及び消防長が会議を行った。その中で、関係機関へ抗議要請を行うことが決定している。また、事件事故等があった際の関係部局間の対応の取り決めについて協議するよう指示があった。消火剤が流出したことによる観光及び農水関係の被害把握や近隣市町村との情報連携についても指示があった。
- 桃原功 委員 市長は関係機関に抗議要請を行うとのことだが、その要請の中に基地内への立入調査も含めるのか。
- 基地政策部次長 基地内立入調査の実施も求める予定である。
- 桃原功 委員 日米地位協定の環境補足協定でも環境に影響を及ぼす事故が現に発生した場合は基地内立入調査を求めることができると規定されている。ぜひ、立入調査を強く要請していただきたい。
- 上里広幸 委員 現地で最終的には除去作業を打ち切ったとのことであるが、打ち切りを判断したのは誰か。
- 消防次長 副市長、消防長、上下水道局長が現場にいたことから、現地指揮本部の判断によるものである。
- 上里広幸 委員 実際に泡が残された状態で除去作業を打ち切ったことになるが、現地に残された泡の状態を見てこの程度であれば安全との認識だったのか。
- 消防次長 消防が現場に到着した段階では泡は大量に堆積し、宙を舞っている状態であった。除去作業により午後以降は飛散しない状態になっていることや、これ以上活動を継続しても効果は見込めないとの判断により、除去作業を中断し、警戒巡視及び広報活動に切りかえて対応した。
- 上里広幸 委員 川に泡が残っていても許容範囲内だったということか。
- 消防次長 作業を中断した午後3時の段階で泡は飛散しないと判断した。また、翌日は雨が降るとの予報もあり、状況判断を行った。
-
- 知名康司 委員長 休憩いたします。(午前11時28分)
- 知名康司 委員長 再開いたします。(午前11時30分)
-
- 知名康司 委員長 本件について本委員会で取り扱うかについて各委員の御意見を伺いたい。
- 桃原朗 委員 取り扱うべきと考える。また、現地の視察も必要であるとする。
- 平安座武志 委員 PFOSが含まれていることも明らかになった。間違いなく取り扱うべきと考える。
- 柴田直樹 委員 不安を感じている市民もいるため、早急に取り扱うべきと考える。
- 上里広幸 委員 取り扱うべきと考える。

○知名康司 委員長 各委員の意見により、本件を取り扱うものと決定した。意見書の文案について御意見を伺いたい。

○宮城克 委員 委員長、副委員長及び事務局が文案を作成し、内容は次回の委員会で協議することとしていただきたい。

(「異議なし」という者あり)

○知名康司 委員長 それでは、文案を本日中に作成してまいりたい。次回の委員会日程については、明日の午後1時30分から行うことといたしたい。

【協議結果】

本件について基地関係特別委員会で取り扱うことと決定した。文案については委員長、副委員長及び事務局が作成し、明日午後1時30分から会議を行うことに決した。

○知名康司 委員長 以上をもちまして、本日の委員会を閉会いたします。

閉会時刻 (午前11時43分)